

第3回「私の学校自慢」

テーマ：「こどもおしごとらんど in 鹿浜」看護学生と看護教員の地域の繋がりづくり

カテゴリー：④ 連携（地域・多職種等）

学校概要：学校名：博慈会高等看護学院 所在地：東京都足立区鹿浜 2 - 1 - 15
課程名：3年過程一学年 40名 修業年限3年

わが校は、新カリキュラムより、一年次の5月に地域・在宅看護論実習Ⅰで警察署、消防署、学習センター、学童保育室で実習を行っている。この実習を通して学生たちは、地域住民や施設の方々との関わりにより地域での暮らし、各施設の機能と役割、そこで働く人々の役割、暮らしや健康に対する考えなどを学んでいる。次の基礎看護学実習Ⅰでは、地域における医療施設の役割、地域で受診行動を必要とする対象者や、健康障害による暮らしや生活への影響、看護の役割を学びに病院、診療所にて実習を行っている。

その中で昨年度、実習を受け入れていただいた、足立区にある鹿浜地域学習センターから一こども×地域×繋がり「こどもおしごとらんど」の協力を依頼された。この催しは、子どもたちと地域の繋がりづくりのために、センター内でブースを設け、子どもたちが各職業の担当者から説明を受けたり、ワークショップの体験を通して、様々な職業への興味関心の幅を広げる機会とする事業である。私たちは、学生2名、教員3名で「こどもおしごとらんど」のイベントに参加した。参加した児童は1年生から5年生までの10名程と保護者の方で2グループに分かれて看護師の仕事についての説明、医療器具の展示や育児モデル人形の抱き方、着替え、おむつ交換、心音、呼吸音、腸蠕動音の聴診体験、などを行った。看護師の仕事は子どもたちからの人気も高く、参加された親御さんも興味深々、モデル人形の赤ちゃんを懐かしそうに抱き上げていた。看護師の仕事の説明では、学生がこれまでの学習や経験をもとに子どもたちにわかりやすく説明し、主体的に参加することができた。笑顔と活気あふれる会場で地域との連携を実感した。子どもたちへのアンケートでは、特に赤ちゃんの抱っこ体験が楽しかったという感想が多かったようである。

手探りの中始まった地域の実習であったが、実習を通して、今回のワークショップという地域での活動にも繋がった。地域の子供たちに看護師という仕事を紹介し、興味関心を引き出すことができた。その他にも希望者が地域消防団への加入、地域のマルシェの参加、授業での民生児童委員さんとのグループワークなど、学校と地域との繋がりが少しずつではあるが増えている。令和4年と5年には西新井消防署および西新井警察署より感謝状をいただいた。

嬉しいことに、今年度も「こどもおしごとらんど」参加の依頼があり、今回は、学生数を増やし、地域との交流を更に深めたいと考えている。



令和5年こどもおしごとらんどより



写真4 D級ポンプの解説

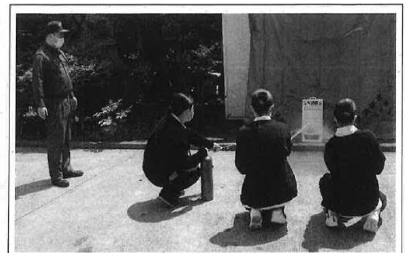


写真5 初期消火訓練：消火器（自衛消防訓練講習会への参加）

令和4年7月10日発行 東京消防より